

発行
久留米市小森野1-1-1
久留米工業高等専門学校内
同窓会久留米工業会本部
電話 (0942) 39-2743
同窓会ホームページ
https://komorinokai.jimdo.com/
同窓会事務局メールアドレス
komorinokai@h2.dion.ne.jp

人生振り返って見た時...

同窓会久留米工業会 会長 國松 良康 (機械工学科 第七回卒業)

今年も若々しい卒業生を送り出しました。高専生二八九人、専攻科三十二人です。卒業式で校長式辞の次に同窓会会長として、お祝いの言葉を伝えていきます。大事な、貴重な時間を頂いているので、少しでも卒業生の為になることを願って話しました。

まあ、似たりよつたりの所もあるのですが、まず、人生は長い様で短い、短い様で長い。光陰矢の如しといいますが、時、光陰の如しかもしれません。しかしその中味は、色んな結果となつて現れます。私が小学生の卒業アルバムの寄せ書きに「楽は苦の種、苦は楽の種」と書きました。父からも「若い時の苦労は買うてでもせい!!」と言われました。

私の経験で、じゃあどういう年月の過し方をすればいいかという、人は必ず成長します。成長する為には、目標を持ち、チャレンジして、多くの失敗を経験することだと思います。石橋を叩いて渡らない評論家タイプの人間には絶対ならないで欲しい。私の場合、走り乍ら、考えていく方式を選びました。人生、八勝七敗うまくいって九勝六敗です。全勝は、大鵬、白鵬からの相撲の世界の話です。前の卒業生にも伝えましたが、私は、毎年一月二日に、〇〇年私の実行目標を十行〇十五行、大きい順、優先順に記入して、それとトイレの壁に貼って毎日読んで、記憶し、深層心理に入る迄毎日毎日見えています。そうしたら自然にそれが、意識として行動になります。しかしせいぜい二〇四項目くらいしか、達成出来ません。それでいいんです。でも続けていくうちに若い時の階段の踏み上がりは低いけど、だんだんその高さは確実に高くなります。別の面からこうも考えていいかと思っ

ています。人生の正当利潤は堂々と受け取って良いと思いません。それは、貴方が世の中のお役に立った証拠。良い家、車、生活の結果として現れ、ちゃんと併せて納税もしてる筈です。若い時の壁が時を経ると以外と低い壁に見えて来ます。成長した自分を振り返れる時が必ず来ます。

又、人生は選択か運命か?の問いが良く議論されますが、私は九〇一で選択を支持しますが、間違いなく運命もあります。まず、この久留米高専を目指す指し入ったのは選択です。入学して、この学校の長い時間をかけて、先輩、諸先生方が培って来られた校風に触れたのは運命でしょう。人生百年の時代ですが僅か三六五〇〇日の命です。毎日違う人と出会っても三六五〇〇人です。久留米の人口より遥かに少ない数字です。いい人との出会いが、その人の人生を豊かにします。

全国に六つの同窓会支部があり、同じ五年間を過ごした優秀な先輩方が居られます。是非この先輩方と出会って、色々相談されてみて下さい。同窓の後輩に對して、かわいくない感情を持つ方はいません。素晴らしい人生になる様、祈っています。

高専校長を拜命することが決まり、赴任先がようやく久留米と知らされたのは、平成二十七年の三月初めになってのことであった。あれから早くも四年余を経た。久留米高専校長として感じているところの今を少しだけ書かせていただく。久留米高専のことについて十分な知識を持たずに赴任した小生にとっての僥倖の一つは、同窓会の皆さんとの出会であった。同窓会評議員会や各支部総会等でご面識を得た皆さんは、さすがに実社会の第一線で活躍されているだけであつて、聡明で、見識があり、進取の気性に富んでおられる方ばかりだった。当然のことながら、学校運営にも、内外ともに難しい判断が求められることがある。そうした中、同窓会の皆さんからは、折に触れて貴重なご助言や励ましをいただいている。心強い限りである。同窓会の皆さんが立派であるとしたら、現役学生の諸君もまた同様である。学生会や寮生会、クラブ等課外活動のリーダーたちと相まみえているとその優秀

遙かなる筑後川

久留米工業高等専門学校長 三川 謙二

さがひしひしと伝わって来る。もちろん、授業においてもまた然り。頼もしい限りである。卒業生から現役学生へと久留米高専の良き伝統が連続と育まれていく様は、学校のすぐ南を滔々と流れる大河筑後川のように日々と常々考えている。だから、入学式と卒業式・修了式の告辞の冒頭には、時候の挨拶として筑後川(千歳川)やそれが織りなす自然について努めて触れるようにしている。

筑後川水系が生み出す素晴らしい自然は、夏目漱石も俳句に詠んでいる。久留米出身の学友菅虎雄の關係で、漱石は熊本第五高等学校(旧制)在職時代に何度か久留米を訪れ、句碑もいくつか残されている(原武哲『夏目漱石と菅虎雄』教育出版センター、一九八三年)。中でも、「菜の花の遙かに黄なり筑後川」は、小生が最も好きな句である。原武先生によれば、これらの句は『草枕』の場面描写にも活かされているとのことである。

周知のとおり、筑後川は「筑紫次郎」という異名を取っている。久留米よりやや下流域にあ

る現在の佐賀県神埼市が輩出した教育者・作家である下村湖人の名作『次郎物語』の「次郎」も筑後川に因んだものだと思つていたが、湖人の息女明石晴代さんの『次郎物語』と父下村湖人(勁草書房、一九八七年)によればそうではないらしい。しかし、『次郎物語』には、大川(筑後川)での父との水泳の様子や筑後川上流探検(無計画の計画)等の記述もあり、筑後川が「精神の発展小説、教養小説」(福田清人)としての『次郎物語』の自然・人生認識の核の一つになっているのではないかと小生は考えている。

余談だが、「令和」初めの休日に京都府の舞鶴に帰省した。近くのスーパーマーケットで、単身赴任中の小生が常食としている久留米近郊産の小松菜を見つけた。筑後川が醸す肥沃な土壌の産物がここにまで届いているのかと感慨ひとしおであった。翻つて、久留米高専の学生諸君が、エンジニアリングやテクノロジーの世界で筑後川のような豊かな実りを生み出しているかという祈るばかりである。

全国高専体育大会バレーボール競技女子三連覇報告

乗富 綾乃 (電気電子工学科五年)

久留米高専バレーボール部(女子)です。私達は、平成三十年八月二十五日、二十六日に行われた第五十三回全国高等専門学校体育大会バレーボール競技(女子)において優勝し、三連覇を達成し、特別表彰もいただくことができました。

女子バレー部は平成二十八年に九州沖縄地区高専大会、全国高専大会で、私達のチームの武器である攻撃力を生かしながら戦い、どちらも初優勝することができました。平成二十九年にも両大会で優勝することができ、今年度は「三連覇」を目標に大会に臨みました。

平成三十年度の九州沖縄地区高専大会で優勝し、出場した全国高専大会では、予選を勝ち上がり、最終日の決勝リーグで福島高専、松江高専と戦いました。

どちらのチームもレシーブ力がありラリーが続く苦しい試合でしたが、仲間を信じて最後までボールを拾い続けました。また、今年度の全国大会は新設の久留米アリーナで開催されたこともあり、多くの卒業生の方が会場に足を運んで応援してくださいました。私たちの大きな力となりました。その結果、優勝することができ、三連覇を達成することができました。

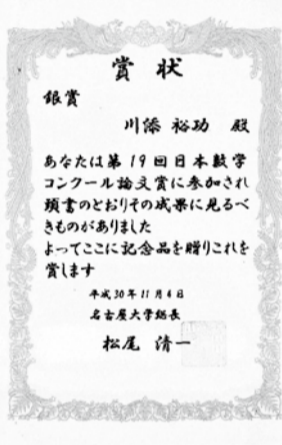
第十九回日本数学コンクール・日本ジュニア数学コンクール論文賞にて銀賞受賞

川添 裕功 (制御情報工学科三年)
植原 晃都 (制御情報工学科三年)

「第十九回日本数学コンクール・日本ジュニア数学コンクール論文賞」にて銀賞を受賞しました。論文テーマは「x, yの式と絶対値の組み合わせだけの簡単な等式で様々な凸多角形を表す。また、凸多角形を表すことができるだけ単純な(美しい)等式を見つけてよ。」というものです。

いた凸多角形だけでなく、任意の凸多角形を表す一般式の導出に成功しました。さらに、三次元以上の凸多面体への拡張を実現することができるところを示しました。これらに加えて川添は、正偶数角形の周を表すより簡単な等式や、プログラミングを利用した図形のプロット、式の導出などを行いました。

法や応用について考察することが出来たため、非常にいい経験となりました。これからの数学に対する勉強を怠らなず、様々なことに精進していくつもりです。



第八回福岡県高校OB・OGチーム対抗ゴルフ大会優勝!

横溝 雄三 (金属工学科 第二十四回卒業)



県内の高校の卒業生がゴルフの腕前を競う「第八回福岡県高校OB・OGチーム対抗ゴルフ大会」(テレビ西日本主催)が、二〇一八年九月八日(土)に福岡市東区の福岡カンツリー倶楽部 和自コースで開催されました。県内四十一校四十五チームの百七十九名が参加し、初参加した久留米高専OBチームが見事に優勝しました。

競技は団体戦で金属二十四期の西尾公孝、横溝雄三、金属二十六期の古賀竜成、機械四十五期の上野諒喜の四名が参加して、上位三名の合計スコアにより順位決定し最良の結果となりました。特に金属二十四期の西尾君が、アマチュア大会でも多くの実績を残している実力を発揮し、スコア七十七でラウンドするとともに個人順位で三位になり、チームの優勝に大きく貢献しました。

表彰式は、博多駅前八仙閣にてTNCの田久保アナウンサーによる司会進行で行われ、この模様は二〇一八年十月七日(日)にテレビ放送されるとともに、優勝者の方に与えられる校歌を、チーム全員で合唱し閉会となりました。本大会は、大変人気となっており参加枠を越える申込に対して抽選で四十五チームが出場しました。今年も参加し、連覇を目指したいと思えます。

第13回 大同窓会開催の御礼

第13回大同窓会実行委員長 田中 信也 (金属工学科 第二十四回卒業)

第13回大同窓会は、平成30年12月29日(土)ホテルニュープラザ久留米にて開催されました。年末のご多用の中、ご来賓の方々や全国各支部の方々、また遠方からも多数ご参加をいただき衷心より御礼申し上げます。

当日は、午後2時からの総会に始まり、芝浦工業大学 橋村真治教授(第二十五回機械工学科卒、前久留米高専機械工学科・准教授)による特別講演、夕刻の懇親会まで、皆様のご協力のもと盛会かつ思い出深い会とする事が出来ました。進行におきましては至らぬところ等あったかと思いますが、大きなトラブルもなく無事に終えることが出来ました事、幹事一同を代表して深く感謝申し上げます。

大同窓会準備期間を振り返りますと、本当にあっという間に本番当日を迎えたという感じでした。開催2か月前の時点では、参加予定者がなかなか目標に達せず苦慮しておりましたが、國松会長を中心に役員の皆様、また各支部長、部活動OB会の皆様にもご協力を頂き、多数の皆様にご参加頂くことが出来ました事、重ねて感謝申し上げます。

会が進むにつれ恩師、旧友、各部活動の先輩後輩と座がぐずれ、盛り上がった宴となり、また、大同窓会最後の締め括りの校歌斉唱・逍遙歌で、会場が一体となった時は、「これが久留米高専だな」と実感致しました。

最後になりましたが、同窓会 久留米工業会の益々の発展と同窓生の皆様のご健勝を祈念し、御礼の挨拶とさせていただきます。



本校卒業生及び専攻科修了生数

(2019年3月現在)

学科名	人員	専攻科名	人員
機械工学科	39	機械・電気システム工学専攻	16
電気電子工学科	38		
制御情報工学科	35		
生物応用化学科	41	物質工学専攻	16
材料工学科	36		
合計	189	合計	32

令和元年度入学生数

学科名	人員	専攻科名	人員
機械工学科	43	機械・電気システム工学専攻	26
電気電子工学科	43		
制御情報工学科	43		
生物応用化学科	44	物質工学専攻	21
材料システム工学科	42		
合計	215	合計	47